

## マルコによる福音書 1章 29-39 節

2014年7月24日

古本 靖久

- 1、聖歌 530番 「たそがれどきに イエスを囲みて」
- 2、お祈り
- 3、テキストの位置

ようやく1章も終盤にさしかかりました。ここにはいやしの記事と、イエス様が何のためにこの地上に来られたのかが書かれています。

新共同訳聖書では、29-34節を一区切りとして、「多くの病人をいやす」という小見出しをつけています。

序文	1:1-15	
ガリラヤでの活動	1:16-20	四人の漁師の召命
	1:21-28	権威ある新しい教え
	1:29-31	ペトロのしゅうとめのいやし
	1:32-34	夕暮れのいやし
	1:35-39	宣べ伝えるために
	1:40-45	重い皮膚病のいやし

しかし、29節と32節とは時間も違えば、そのいやしという行為が持つ意味も違います。今日はまず、その違いに気を付けながら、二つのいやしの記事に目を向けたいと思います。

### 4、1節ごとに

#### ◆ペトロのしゅうとめのいやし

**1:29** （そして）すぐに、**＝**符（彼ら）は会堂を出て、シモンとアンデレの家に行った。ヤコブとヨハネも一緒であった。

イエス様は16-20節で四人の漁師を弟子とした後で、汚れた霊に取りつかれた男をいやしました。イエス様の評判はガリラヤ地方の隅々まで広まりましたが、シモン・ペトロ（以下ペトロ）とアンデレの家に行きます。人々を避けるためだったのか、他の目的があったのか、四人の弟子を引き連れて、家に向かうのです。

アンデレは最初の弟子たちのうちの一人ですが、マタイ・ルカ福音書には召命物語を除いて、全く登場しません。またマルコ福音書ではここで言及されているのと、13章で終末のしるしを尋ねる場面で出てくるだけです。それに対してペトロ、ヨハネ、ヤコブは重要な場面になると必ず登場します。



さて、イエス様はペトロとアンデレの家に行きました。ということは、ペトロたちはまだ家族とつながっていたのです。ペトロは弟子になるときに、「網を捨てて」従いました。そして10章28節では、「このとおり、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました」と言っています。

前回の学びの時にもお話しましたが、福音書が伝えるのは「イエス様の後について行った」ということだけで、家族や職業との完全な決別を強調しているわけではありません。イエス様をすべてにおいて、第一と考えるか否かが問われているのです。

**1:30** (さて) シモンのしゅうとめが熱を出して(熱病を患って)寝ていた(床に就いていた)ので、~~彼女~~(彼女)は早速、彼女のことをイエスに話した(す)。

ペトロにはしゅうとめがいました。つまりペトロは妻帯者でした。なおペトロの妻はこのカファルナウムの家にずっとおり、後に教会として用いていたと伝えられています。

当時病気の原因は、体の中によくないものが入ったためだと考えられていました。熱などもかなり擬人化されて、入ったり去ったりしていきます。なお熱病と訳した語は、「燃える」や「火」が語源となっており、体が燃えたぎるように熱い様子をあらわしています。

ペトロたちは、ここにいるはずのしゅうとめがどうしていないのか、イエス様に説明しようとしたのでしょうか。それとも、イエス様に彼女が病気であることを伝え、いやしてもらうことを期待したのでしょうか。

**1:31** ~~イエスが~~(彼は彼女の)そばに行き、手を取って起こされると、熱は(彼女から)去り、~~彼女は~~(彼女) ~~をもてなした~~(に仕えた)。

イエス様がとった行動は、「彼女をいやす」というものでした。以前、神学館の学びの時にこんなことを言った生徒がいました。「イエス様はきっとお腹を空かしていたに違いない。だから早くご飯を作ってもらうために、彼女をいやしたんだ」。笑いはおきましたが、そういうことではないと思います。

イエス様がおこなった「手を取る」という行為は、よく知られたいやしの行為でした。さらにイエス様は、彼女を起こします。「起こす」という語(エゲイロー)は、単に起き上がるという意味の他に、復活するという意味も持ちます。イエス様はこの後も様々な人を起こされます。中風の人、手の萎えた人、ヤイロの娘、汚れた霊に取りつかれた子、バルティマイ、そしてご自身も神さまによって起こされます。彼女もイエス様に手を取られ、起こされました。そこには新しい歩みも感じられるのです。

最後に彼女が仕えたということ。「仕える」(ディアコネオー)は「執事」(ディアコノス)の語源です。ここに「奉仕」という弟子のあり方を見ることもできます。

会堂という公の場でのいやしに続き、イエス様は私的な場所である家でいやしました。

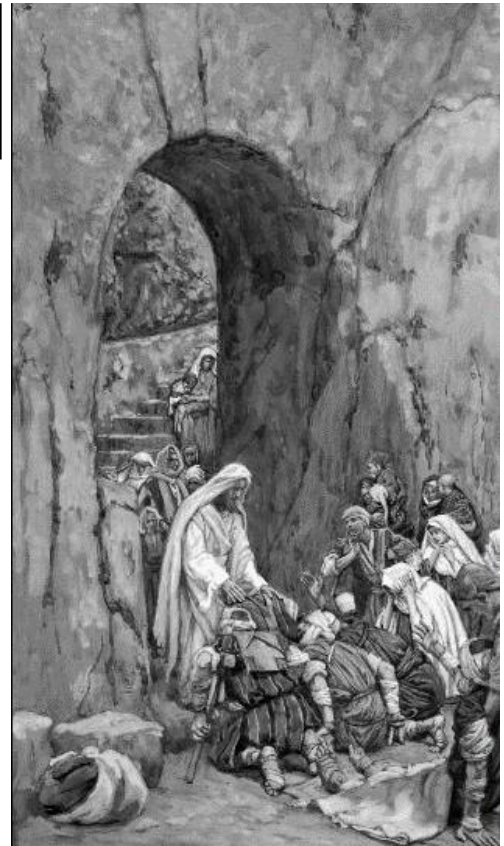
### ◆夕暮れのいやし

**1:32** (さて) 夕方になって日が沈むと、人々は、病人や悪霊に取りつかれた(憑かれた)者を皆、イエス(彼)のもとに連れて来た。

長い一日が終わろうとしています。この日は 21 節から始まりました。一行はカファルナウムに着き、安息日に会堂で教え、その後でペトロの家に行き、ペトロのしゅうとめをいやしました。そして夕方になり日が沈みます。つまりこの日はまだ安息日です。

安息日に禁止されたことは 613 にも上ると言います。これを語呂合わせで「無意味」と呼びますが。禁止されたのは火をおこす、収穫する、長い距離を歩く、等々。そして重いものを運ぶことも駄目、つまり病人を運んでくることも安息日には禁止されていました。

ユダヤの一日始まりと終わりは、現代の日本などのように、午前0時ではありませんでした。日没がその日の終わりであり、新しい日の始まりなのです。人々は日付が変わったその時に、少しでも早く、イエス様の元に病人を連れて来たかったのでしょう。



**1:33** (そして) 町中の人々が、戸口に集まった。

イエス様の評判は、ガリラヤ地方の隅々にまで広がっていました(28節)。イエス様を「新しい教え」を伝える方として捉えている人もいたかもしれません。しかし大半は、いやし手として、奇跡行為者としてのイエス様の評判を聞き、集められたのです。

新共同訳で「町中の人々が」となっているところは、直訳すると「町中が」となります。マルコは「すべての」という語を好んで使います。それはマルコが、イエス様のみ業があらゆる場所に影響を与え、またその働きがすべての所に及んでいったことを知っていたからではないでしょうか。福音書の中でマルコは、イエス様がなさったことがすべての人に波及していく様子を、何度も繰り返して強調していきます。

ここでも、イエス様の元にあらゆる人たちが集まって来たことを伝えます。そこには貧富の差も、階級も、職業も何も関係ありませんでした。すべての人に対してイエス様の評判は伝えられ、そして町中のあらゆる者がイエス様の元へと集まってくる。でもほとんどの人はイエス様の本当の姿を知らない。

わたしたちの教会にもさまざまな人が集ってきます。何かを求めてくる人々に、わたしたちはどのようなイエス様を伝えることができるのでしょうか。

1:34 (そして) ~~イエス~~ (彼) は、~~いろいろ~~ (さまざま) な病気にかかっている大勢の人たちをいやし、また、多くの悪霊を追い出して、悪霊にもの言うことをお許しにならなかった。悪霊は~~イエス~~ (彼) を知っていたからである。

イエス様は病気の人をいやし、また悪霊を追い出します。悪霊とは 23 節に出て来た「汚れた霊」とほぼ同義ですが、「汚れた霊」の方が宗教的な意味合いは強いようです。

イエス様は、悪霊にもの言うことを許されませんでした。前回の「汚れた霊に取りつかれた男をいやす」では、イエス様は「黙れ、この人から出て行け」と命じられます。その時には、「やかましい」という意味合いが強いのではないかと、という説明をしました。しかし今回は、はっきりと「悪霊はイエスを知っていたからである」と、ものを言わせなかった理由が書かれています。なぜ、イエス様はご自分の正体を知られてはならなかったのでしょうか。

普段は自分の本来の姿を隠して行動し、最後に種明かしをするということなのでしょう。水戸黄門や遠山の金さん、スーパーマンにタイガーマスクなどがその正体を簡単には知らせなかったように、イエス様もご自身がメシアであることを、人に知られてはならなかったのでしょうか。

	小見出し	聖書箇所
悪霊に対して	汚れた霊に取りつかれた男をいやす	1:25
	多くの病人をいやす	1:34
	湖の岸辺の群衆	3:12
いやした人に対して	重い皮膚病を患っている人をいやす	1:44
	ヤイロの娘とイエスの服に触れる女	5:43
	耳が聞こえず舌の回らない人をいやす	7:36
弟子たちに対して	ペトロ、信仰を言い表す	8:30
	イエスの姿が変わる	9:9

このようなイエス様が沈黙を要求する箇所は、マルコ福音書には上の表に示したように何度も出てきます。W. ヴレーデという神学者は、このような箇所を取り上げ、「メシアの秘密」という考え方を示します。

その考え方によると、マルコ福音書が書かれていた時代、イエス様は復活して初めてメシアになったという信仰と、生前からメシアであったという信仰があったと言われています。

マルコはその問題を解決するために、イエス様は生前からメシアであったが、復活の時までそれを秘密にしていたので、弟子たちも理解できなかったという捉え方を福音書の中に埋め込んで行ったというのです。しかし、現在はこのヴレーデの考え方はあまり支持されていません。

イエス様はご自分が奇跡行為者として来たのではないということをはっきりさせたかったのです。いやしによって悪霊を追放することが主なる目的ではなく、一番の目的は十字架です。その目的が霞まないように、イエス様はその時までご自分の正体を隠されたのです。

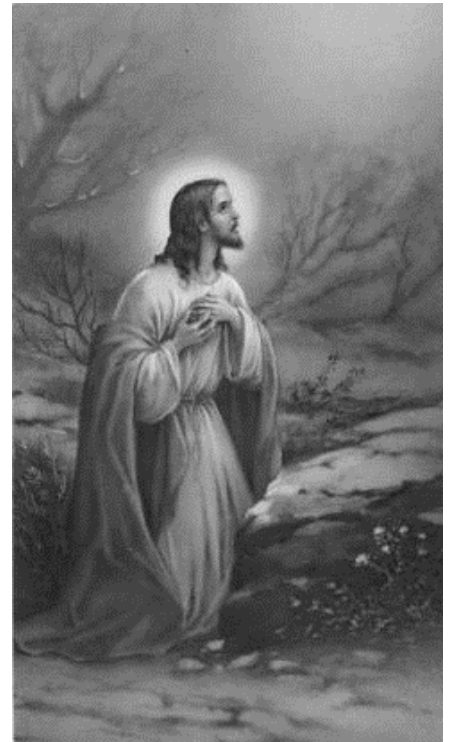
## ◆宣べ伝えるために

**1:35** (そして彼は) 朝早くまだ暗いうちに、~~イエスは~~起き (上がっ) て、~~人里離れた~~ (寂しい) 所へ出て行き、そこで祈っておられた。

イエス様が人を避けて祈る姿は、マルコ福音書には湖の上を歩く前と、ゲツセマネの園に見ることができます。

イエス様はなぜ祈ったのでしょうか。ゲツセマネの園での祈りを思い起こしてみましょう。「しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように」(14:36) とあるように、父なる神さまのみ心を聞き、頼り、委ねるために、イエス様は祈るのです。

ここで「人里離れた所」となっている言葉は、1:12 でイエス様が誘惑を受けた「荒れ野」と同じ語です。イエス様は荒れ野で誘惑を退けました。その横には野獣が一緒におり、天使たちが仕えました。そして今、祈るために再び「荒れ野」へと向かうイエス様。そこは単に人里から離れた場所であるだけではなく、神さまと語ることのできる場所、たくさんの人の病気をいやし、多くの悪霊を追い出した激しい活動のあとで、心身ともに休むことのできる場所でした。



**1:36** (そして) シモンとその仲間 (たち) は~~イエス~~ (彼) の後を追ひ、

ところが、弟子たちはイエス様の目的を理解せず、その後を追います。イエス様の祈りの邪魔をするのです。「弟子の無理解」という主題がこの福音書の中にはあるのですが、ここは記念すべき第一号と言えるでしょう。(あまりうれしい記念ではないですが)。

嵐の湖では「まだ信じないのか」と言われ (4:35-41)、イエス様が湖の上を歩いた時には「心が鈍く」なっており (6:45-52)、パンを持ってくるのを忘れたときには「まだ、わからないのか。悟らないのか」と言われ (8:14-21)、イエス様をいさめたペトロは「サタン、引き下がれ」と言われてしまいます (8:27-30)。その後も弟子たちは、ことあるごとにイエス様に叱られる、これらの描写が「弟子の無理解」といわれる箇所です。

ではこの時、なぜ弟子たちはイエス様を捜したのでしょうか。イエス様の元にはたくさんの病人や悪霊に取りつかれた人がやってきました。イエス様はその人たちをいやしましたが、イエス様が祈りに行った後も、次から次に新しい人がやってきたのかもしれませんが。

また、イエス様がいやしや悪霊追放をするたびに、人々は歓声をあげ、感謝したことでしょう。きっとそばにいる弟子たちも、鼻が高かったに違いありません。なんだか自分たちまでもが偉くなったような、そんな錯覚を持って不思議ではないでしょう。困った人のためではなく、自分たちのためにイエス様が必要だと感じたのかもしれませんが。

1:37 (そして) ~~見つけると、~~ (た)。(そして彼に)「みんなが(あなたを)捜しています」と言~~った~~ (う)。

ここで「捜す」という言葉が出て来ています。マルコ福音書ではほとんどの場合、この語は悪意の内に人を捜し求めるという意味で用いられており、ここでも弟子たちは純粋な心で捜しているのではないということを示します。

「みんなが」、と弟子たちは言います。しかし本当に捜しているのは自分たちであり、奇跡行為者としてのイエス様が今、自分たちには必要だったということなのです。

「あなたは奇跡を起こすといい。そうすれば人々は簡単についてくるでしょう」。そう誘惑するのは誰でしょうか。荒れ野の誘惑は、ここにも続いているのです。

1:38 (そして) ~~イエス~~ (彼)は(彼らに)言~~われた~~ (う)。「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも(また)、わたしは宣教する。(なぜなら)そのためにわたしは出て来たの~~である~~ (だから)。」

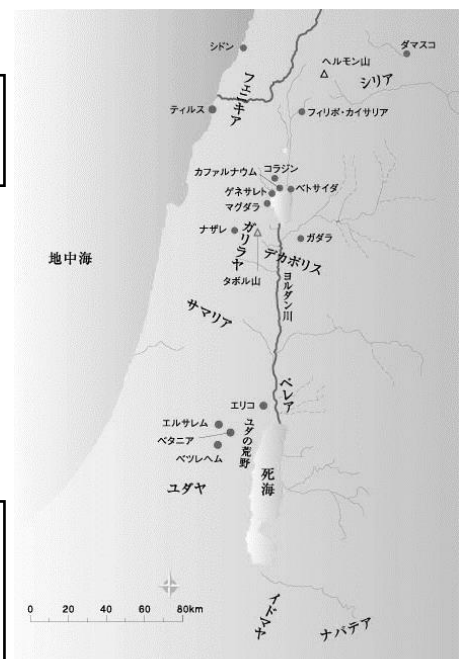
しかしイエス様は、自分は宣教すると言われます。祈りのあとにこの決断をされたということは、これは神さまのみ心であるということです。しかし、病気の人などをイエス様がながしにしたわけではありません。事実、これから先の章でもいやしの記事は多く出てきます。イエス様のいやしは宣教と固く結びついている、いやしの行為こそが宣教なのです。そして宣教活動がガリラヤ全土に広がるのが、神さまのみ心でした。

イエス様はそのために地上に来られたのだと、弟子たちに伝えられます。イエス様の宣教の種は 2000 年前のガリラヤ地方だけに蒔かれたのでしょうか。イエス様は今も、「近くのほかの町や村に行こう」と、わたしたちを伴い、歩み続けているのではないのでしょうか。

1:39 そして、ガリラヤ中~~の~~ (全土にある彼らの) 会堂に行き、宣教し (宣べ伝え)、悪霊を追い出された。

会堂とは、共に祈り、聖書を読む共同体を指します。イエス様はまず、会堂に行き、福音を告げ知らせに行きます。しかしその道のりは平坦ではないことも、行きつく先は十字架の死であることも、イエス様はすでに知っておられたのでしょうか。

今回の学びは、これで終わります。次回は 8 月 28 日(木)10 時 30 分～で、「重い皮膚病を患っている人をいやす(マルコ 1:40～45)」について学んでいきたいと思ひます。



イエスが宣教した町々